

■ 活動記録 ■

◆ 教育事業 ◆

オーストラリアセミナー報告

◆2014年度 オーストラリアセミナー

辛島 理人（先端社会研究所 専任研究員）

社会学研究科「先端社会講義 E」と連動させるかたちで今年度もオーストラリア研修を行った。オーストラリア国立大学（ANU）では毎年1月末ないし2月上旬の（南半球の）夏休みを利用して日本研究の院生サマースクールを開いており、関西学院大学も、最初は大学院 GP 事業の一環として、現在は先端社会研究所の事業として、大学院生を派遣してきた。これまで10年近くに渡って、オーストラリア、ニュージーランドはもちろん、世界各地の大学や本学をはじめとする日本からの参加者を集めていたものの、主催校の都合で2012年をもって休止となった。そのため、今回は、ANUと関西学院大学、日豪双方の有志によりかたちを変えて再開することとし、日本側の夏休みにあたる2014年7月29-30日に開催した。関西学院大学（社会学研究科）からは、研修のなかった昨年度に参加を希望していた者を含む大学院生5名が参加した。参加者とそれぞれの発表は以下の通り。

Motoko Odani（小田二元子：M2）

*Variety and Fluidity of Sexuality: Lesbian Bars in Osaka*

Kai Okuda（奥田絵：M2）

*The Mountain Management and The Disaster: A Case Study of Kumano-city*

Chika Yazaki（矢崎千華：D3）

*The Establishment of 'Personal Narratives': The Dawn of 'Personal-Advice Column' and Ienotomo, Jogakuzasshi*

Saki Nakajima（中島沙紀：M2）

*The Effect of Reference Group on Class Identification: Through Analyzing SSM 2005 in Japan*

Ayumi Chihara（智原あゆみ：M2）

*How the Relation between Social Network and Well-being: Varies among Residential Areas in Japan?*

日本側が夏休みということで今回も「サマースクール」となったが、会場のキャンペラは真冬であり、気候の変化に戸惑った参加者もみられた。しかし、体調を崩す者も出ず、参加者全員が無事に報告をしてすべての旅程を終えることができた。また、テッサ・モーリス・スズキ教授（アジア太平洋研究学群）による基調講演（*The Ghosts Return: Rethinking Memory and International Tensions Between Japan and Its Neighbours*）のほか、会場提供などをする受入校として ANU 側からも大学

院生3名が報告、別の院生3名が司会を担当してくれた。ほかにも、各パネルに参加した ANU の教員や院生から報告に対して意見や質問が出された。また、大学での討議の後、市内にあるオーストラリア国立図書館の厚意により、同館アジアコレクションをはじめとする資料・施設の見学を行うことができた。オーストラリア国立大学およびオーストラリア国立図書館の皆様をはじめとするオーストラリア側の暖かい接遇に御礼申し上げる。2015 年度も日本の夏休みに研修を予定している。